

CPR (心肺蘇生) 研修会

さあ、胸を押しましょう!

現場を頭に思い浮かべた実践的研修を実施

6月7日、保険医協会会議室で、CPR (心肺蘇生) 研修会「いざという時のために」を開催し、医師・看護師など17人が参加した。村上博先生 (西宮市・ユニコの森・村上こどもクリニック) と芦田乃介先生 (西宮市・あしだこども診療所) が講師を務め、日本BLS協会のインストラクター、アメリカ心臓協会認定のヘルスケアプロバイダーの協力を得た。芦田先生からいただいた感想文を紹介する。

最近、全国各地で心肺蘇生法講習が行われている。今まで消防署が中心に行われていた講習が、もっと身近なものになってきた。

その流れの中で、6月7日に兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部主催でCPR講習が開催された。受講者は全部で17名、中に1名小学生も含まれ (彼はこの講習の常連さん) 幅広い層に対しての講習となった。

この17名に対し、指導する側のスタッフは日本BLS協会所属のインストラクターが4名、アメリカ心臓協会認定のヘルスケアプロバイダーが4名、計8名と豪華な陣容での講習となった。

今回の講習の特徴は、医師、看護師、医学生とそれ以外の人たち (薬剤師、歯科助手等) の二つのグループに分けて講習を行ったことである。医師、看護師に

求められるレベルとそれ以外の人たちに求められるレベルは若干異なっている。そのことからそれぞれのレベルに即した講習を行った。

もう一つの特徴は、チームでCPRを行う講習も組み入れてみたことである。一般的に消防署で行う講習はあくまで個人を対象とし、自分一人だけで対応する手技を学ぶことが多い。ただクリニックで誰か (患者だけでなくその先生やスタッフ) が倒れた場合、一人だけで対応することはまず有り得ない。誰かが救急車を呼び、誰かがAEDを取りに行き、その間残った人間がCPRを継続して行うはずである。そのような状況を想定して、複数の人間でCPRを行う練習を複数回繰り返してみた。

実際の現場を頭に思い浮かべながらの講習を行うことによって、受講された方々に没入感を与え、そのことが講習の学習効果を高めたはずである。当初1時間30分の講習時間を予定していたが、実技練習に熱中し、またいろいろな質問が飛び交うことで、予定より15分以上講習時間が延長したことが今後の課題かもしれない。ただ、講習を終わって会場を出て行かれる受講者の方々の表情が初夏の夕日を受けて輝いていたように見えた時、この講習の意義をあらためて感じたのであった。

【西宮市・あしだこども診療所
芦田 乃介】



村上先生の合図で懸命に心肺蘇生の練習を行う参加者



AEDの取り扱い方法について説明する芦田先生 (中央)

初心者のための 保険請求事務講習会

【日時】 9月20日 (土) 14時30分~17時30分
9月21日 (日) 10時~15時
【会場】 西宮市民会館 中会議室 401
西宮市六湛寺町10-11 (阪神「西宮」駅より北へ徒歩2分)
【定員】 70人 (申込順 ※残席わずかです)
【参加費】 8,000円 (資料代、2日目のお弁当代を含む)

※2日間とも参加された方には「修了証」を発行いたします。
※お申込みは協会事務局 山田・岡林・伊藤 TEL078-393-1803 まで

世話人会だより

西宮・芦屋支部は6月27日に西宮医療会館で世話人会を開催。6人が参加した。

【報告】

- ① CPR講習会 (6・7)
- ② 第13回胸部X-IP読影会 (6・19)
- ③ 浜福鶴吟醸工房酒蔵見学会 (6・21)

【予定・企画】

- ① 第31回漢方研究会 (6・28)
- ② 英語で診療 Medical English #41 (7・18)
- ③ 第34回支部総会記念市民公開講演会 (7・19)
- ④ 保険請求事務講習会 (9・20~21)
- ⑤ 但馬支部との交流企画
- ⑥ 阪神淡路大震災20年の集い (1・17)
- ⑦ 第25回日常診療ガイドライン

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

浜福鶴吟醸工房酒蔵見学会

日本酒の伝統を守っていききたい

6月21日、灘区の小山本家酒造灘浜福鶴蔵で「浜福鶴吟醸工房 酒蔵見学会」を開催。医師・歯科医師・スタッフら10人が参加した。参加いただいた先生からの感想文を掲載する。

6月21日に診療後、昼食をとる時間もなく、阪神「魚崎」駅に降り立ちました。非常に蒸し暑く、汗ばむ午後でした。駅



杜氏の宮脇氏とともに昔の酒造りを体験する参加者



見学の後にはお楽しみの日本酒試飲会が行われた

から10分程度で酒蔵が多く立ち並ぶ魚崎郷の小山本家酒造、灘浜福鶴蔵に到着。さっそく杜氏の宮脇米治氏に、杉玉の話や、銘酒の原点は仕込み水であり、六甲山麓に降る雨水が濾過され名水として湧く恵まれた土地だとの説明で、灘五郷（西郷、御影郷、魚崎郷、西宮郷、今津郷）は多くの酒蔵家が繁栄していた。阪神淡路大震災後は酒蔵も減少しているとのこと、我々消費者の

ニーズも変化し、日常日本酒を口にすることも少なくなり、ビール、ワイン、焼酎と多様化する中で酒造りを頑張られている酒蔵には今後も日本酒造りに励んでもらいたいです。

試飲も行われており、ゆずの酒や蔵限定の酒も計り売りされており、いただいてみましたが、芳醇な味わいでワインと比べても奥深さ香りなど驚きの味でした。外国で日本酒の売上げは伸びているようですが、国内で私たちが飲むことで伝統を守っていくことに協力したいものです。

【西宮市・あずさ歯科 梓学】



酒樽を模した入口の前で参加者全員そろって記念撮影

第31回漢方研究会

NSTにおける漢方の可能性を解説

6月28日、西宮神社会館で第31回漢方研究会「栄養サポートチーム（NST）における漢方治療の実際」をえつ、こんな時も使えるの」を開催。講師は有島武志先生（北里大学東洋医学総合研究所研究員、宝塚市・ありしま内科）、司会は川崎史寛先生（西宮市・川崎医院）と長光

由紀先生（伊丹市・ウイング調剤薬局）が務め、医師・薬剤師・栄養士ら58人が参加した。

日本東洋医学会専門医でもある有島先生は、実虚・寒熱の中庸を求めることや、心の変化と身体の変化は「心身一如」であり、一体性の回復をめざすなど、漢方医学の概

念や基本事項から分かりやすく解説した。

次に、NST (Nutrition Support Team) の現場に漢方治療を取り入れるきっかけとなった症例を紹介。3年間の下痢症状で著しい脱水と栄養失調（るい瘦）で救急搬送された患者に、高カロリー輸液療法とともに「人参湯」を導入したことで食事レベルをアップさせ、褥瘡が治癒、歩行訓練も可能となってリハビリ病院へ転院となった経過を述べた。

また、「十全大補湯」「補中益気湯」「人参湯」「六君子湯」「大建中湯」など頻用する漢方薬の構成生薬を解説するとともに、身体面・精神面の効果が、患者と治療者の満足感とほぼ一致した症例を6例紹介。NSTになぜ漢方医療が必要か、漢方の可能性について言及した。

最後に、夏バテに対し、冷たい飲食や冷房下での服装の指導とともに、「清暑益気湯」を用いて、胃腸の働きを整え体内の水分喪失の改善を図れた症例も紹介した。

講演後、参加者からは熱心な質問が相次ぎ、配布された「症例アブストラクト集」も好評だった。



NSTに漢方を取り入れた事例を紹介する有島先生



講演後、会場からは熱心な質問が多数寄せられた